

## 熊本県における装飾古墳に関する取組について

### 1. 令和元年度「大規模震災における古墳の石室及び横穴墓等の被災状況調査の方法に関する調査研究事業」について

●古墳の石室や横穴墓等について平成28年熊本地震による被害並びにその後の状況を把握し、その取組等を全国に発信し全国的な古墳の防災につなげるため、奈良文化財研究所への委託事業を実施。（事業期間：令和元年9月17日～令和2年3月31日）

●石室石材の保存に関する研究、古墳石室内環境調査、石室記録作成方法の実践に関する研究、古墳保護施設の経年変化に関する調査研究、被災関連古墳の調査を実施。対象は、史跡井寺古墳、史跡江田船山古墳 附 塚坊主古墳、史跡今城大塚古墳、史跡大野窟古墳。

●平成30年度・令和元年度に実施した「大規模震災における古墳の石室及び横穴墓等の被災状況調査の方法に関する調査研究事業」を通じて、古墳の壁画及び石室を保護するうえでの墳丘盛土の保護の重要性や効果的なデータの取得方法、適切なモニタリングの実施の在り方等が明らかとなった。

●今後はそれらの成果を取りまとめ、その取組等を全国に発信することで全国的な古墳の防災につなげる。

### 2. 令和2年度の熊本県内での装飾古墳に関する状況及び取組

●史跡塚坊主古墳での新たに発生した石室内への雨水の浸入への対策の実施

- ・6月半ばの豪雨により、石室内部への水の侵入が再び発生。
- ・雨天時に墳丘を覆うシートを増やすとともに、保存施設の亀裂箇所からの雨水が石室に進入しないよう吸水シートを設置。
- ・今後、給水シートの定期的な確認等を実施し、モニタリングを継続。

●今城大塚古墳での墳丘被災状況の比較検討に着手

- ・新たに墳丘の三次元測量を実施。
- ・被災前の三次元データと比較することで、墳丘の被災状況の把握を行う。